令和５年神奈川県議会第２回定例会　文教常任委員会

令和５年７月６日

意見発表

〇鈴木ひでし委員

公明党議員団として、何点か意見、要望をお話しさせていただこうと思います。

発表に入る前に一言。私、久しぶりに文教に来させていただきました。質疑を聞いているうちに、他会派の皆さんの質疑や、また私の質疑を聞いているうちに、皆さん方は何げなく答弁されているのかもしれないけれども、私なんかからするとすごく、要するに、かたくなに自分の施策に対してこの正当性を、要するに言い張るような論陣が、すごく私は見えたというような思いがした。

どういうことなのかというと、やはり施策でございますから、そりゃ、いいところもあれば悪いところもある。現場に私たち議員が、生徒さんや、また教職員の方やまた県民の方から聞いた声をこの場でぶつけていて、何も皆さん方が100％、施策そのもの自体というのは、正しい正しくないと言っているわけではない。やはり、しっかりとした議論という中で、もっと新しいものをつくり上げていくという、受け入れるものは受け入れる、それはまた違いますよと丁々発止のやり方があって、やはり私は教育委員会という、皆様方からすれば本当に、言葉過ぎたら許していただきたいんですけれども、上意下達でもおかしくない。こういうふうにやりなさいと言っておられるようなお立場の皆さん方からすれば、これは100％でなければいけないという思いもあるのかもしれないけれども、やはり一つ一つの施策や、それに対してのこちらの意見というようなものは、受けるものは受け、また、はじくものははじいていただくというような姿勢をぜひともお願いをして、建設的な委員会にしていただきたいというようなお願いを第１点にさせていただきたいと思います。

そのほかに数点、お願いしたいと思います。私が、教育長にＰＣの１台設置ということを何でこんなにしつこく迫ったのか。何も新聞報道にあったからじゃない。何なのかというと、特に高等部の皆さん方というのは、これから社会にある意味じゃ出ていくわけですよ。外、あの高校生の高等部の方々というのは、一気にＩＣＴ等々の、また社会の中で、どんな人でも働けるという地域やまた職場等々に触れなきゃならない。そのときに、またそういうような社会にならなきゃいけないという中で、私は、もうＩＣＴというようなものは、１人に１台があって、どんな課題でも使えるような社会というのはつくらなきゃならないという思いで、一刻も早く入れるべきだということを私は新聞を通じて訴えた。

あわせて、やはり必要なのは１台だけじゃなくて、ソフトウエアそのものについても、やはり特別支援学校等々のお一人お一人は、全部オーダーメードと言ってもいいぐらいで、また反面、私も一つ反省しなきゃならないことは、きっと１台になれば、教員の方々が、このＩＤやパスワードを入れなきゃならない御苦労もあるということは私、分かっておりますけれども、その中で、やっぱりこれからソフトウエア等々でもって、この人たちの未来を担うんだと、そ

のために一生懸命、現場の職員の方々が頑張ってくださる、それを少しでも応援したいという意味でやらせていただきました。ぜひとも１人１台、なおかつソフトウエアについてはオーダーメードの、一人一人に対応していただく、そういうものをひとつお願いをしたいと思います。

２つ目、セクハラ掌握関係については、課長さんと丁々発止でやらせていただいた。

その中で私がすごく感じたことは、そもそもが調査というのは何のためにすべきなのか。もちろんセクハラの実態というようなものを調べなきゃならないというものはあるのかもしれない。だけれども、それによって何を得て何をしたいのかというようなことをしない調査というのは、私は正直申し上げて、これほど無駄なものはないんじゃないかと思っているんです。

例えば、答弁をいろいろお聞きすると、皆さん方から返ってくるのは、啓蒙とか周知させますとか、多くの方の意見を聞いてと言う。じゃ、多くの方ってどれくらいなんだと、啓蒙ってどれくらいするの。私、確かに教育というのは、データや、また数字では測れるものではないという方もいらっしゃるかもしれないけれども、時代は、私どんどん変わっていっていると思う。データというようなもので、どのようになっているのか、また、そのデータによって何を言っているのかというようなことをこちらがきちっと理解をして言わなければ、調査そのもの自体をやっても 100％ではなく、それは 40％にも 20％にもなるというのが、実は私、データであり数字だと思っているんですよ。

その中で、今回やっていただいた、決してやったことを私は否定しているものでも何でもない。どうせやってくださるんだったら、今度逆に、それを全部データや数字に置き換えて、こういうふうにすべきなんですよ、また、こんなようなところが弱いんですよということを調査を受けた人に返すというのが本来の筋でしょう。これが要するにないがゆえに、いつまでたっても、失礼ですが、こういう問題が消えない。もっと失礼ですが、データや数字にもっとこだわりを持って、施策並びにまた調査をやっていただきたいというのが１点目。

２点目、私、質疑聞いていてすごく不思議に思ったのは、そもそもが教育委員会というのはどういうところなんだ、校長というのはどういうところなんだというような区分けをしっかりされていらっしゃるのかなと私は思いました。何を言いたいのかというと、校長そのもの自体には、校務の掌握権というのを持っている。所属職員の掌握権というのを持っている。２つも、とてつもない、失礼な言葉を使っちゃいけないけれども、権利というようなもの、または権力を持っていらっしゃる。この人たちがなぜ出なくて、教育委員会が何でもかんでも答弁しなきゃならないんだと私は思うわけ。

厚木の事案だってそうでしょう。失礼ですが、皆様方の職場だって 50 人か 60 人いたら、１年間もいれば、失礼ですが、どんな癖があるかとか、どんな人間かなんて普通分かりますよ。それを、いざとなってみたら事件が起こりました。集めてああだこうだと言う前に、そもそも校長先生はどういうような対応をして、どういうようなことをやったのかというＰＤＣＡサイクルって、この人たちこそ一番、私は大事じゃないかと思ったんですよ。

何かあれば、先ほどのいろんな答弁をお聞きしていると、市町村の教育委員

会にとか、県の教育委員会にとかおっしゃるけれども、そもそもこの２つの大きな権限を持った校長先生というようなものについて、今後どのようにやっぱりプロモートさせるのかというようなことについて、ぜひとも検討を願いたいというのは、私の２つ目のお願いでございます。

そして最後は、私は、やっぱりこれからの時代というようなものを先取りした形でのもう一つ、またＤＸということについての対応もぜひともお願いしたい。何なのかというと、私が今から４年前か５年前だったですか、桐谷さんの時代に、ＯｒｉＨｉｍｅを全国で初で、神奈川県の教育委員会、入れていただいた。あのときも私は、どんな人でもやっぱり同じ学校で同じ思いをしていただきたいという思いから、吉藤さんにも、じかにお会いして、ＯｒｉＨｉｍｅを全国で初めて入れさせていただきました。そこから県庁の中でも入ったりした。また、教育または学校長もひっくるめた管理職の指針というのをつくるべきだと提言させていただいて、つくってもいただいた。

全てが、やはり私、これからの時代というようなものは、物すごい勢いで現場も変わっているし、先生方も世代感というのがあるんでしょうし、そういう中でもって、私はもうＤＸを活用した形での新たな施策というようなものをどしどしと進めていただきたいということをお願いしまして、私の意見と要望とさせていただきます。

まとめに、公明党議員団として議案に賛成をさせていただきます。